

おおもとウィメンズクリニックレター Vol.14 14周年記念版



唯今思うこと

院長 大本裕之

2020年の開院記念の日に思った1年とは全く違うCOVID-19に翻弄され、乗り越えようとする世界を唯今生きている。医学史で学んだパンデミックが新たな脅威として突然立ち上がり、個人として、家族として、クリニックとして、そして社会の中で昏迷、混乱、そして未知の恐怖に対して少しずつ理解しながら立ち向かっている。先人達がそうであったように新しい文明の転機、端緒と思うが、個々の健康がかかっているからにはそれは割り切れない。医療の最前線と後方支援、世界と自国、地域と個人、各々の立場で恐怖と分断に惑わされることなく、それぞれの立場でヒトは協調・協働（同じ目的のために、力をあわせて働くこと）が必要と思う。と共にクリニック本来の診療に影響が出ないようにクリニックスタッフの健康を守り、患者様に不安のない医療体制・対策を怠らないようにしたい。

この時代に

副院長 大本佳恵

人生半世紀も生きていれば、色んな出来事があってもおかしくはない。ただ誰もがそうだろうが、丸一年COVID-19に自分たちの生き方を変えられるとは夢にも考えられなかった。「STAY HOME」これが一年間の日本国民の合言葉になってしまった。緊急事態宣言も最初は今一つどういう事かわからなかったが、自分達の行動の自由を奪われ、経済の流れも止まり、まるで「見えない相手との戦争」と覚悟をせざるを得なかった。時を同じくして、クリニックスタッフも人数定数減の中、そうでなくても心身共にハードな時、みんな自分の身体を守りつつ必死で診療についてくれた。おかげで大きなトラブルもなく新しい年を迎えられた。みんな、想像できない程のストレスを抱えてクリニックに出て来てくれていたんだろうと改めて感謝の思いで一杯になった。私自身も相変わらずの体調の波に何とか負けまいと頑張っていたつもりだったが、この世の中の状況ではなかなかよくなるものも上手くいかないものだと感じ、それでも今の現状の中で生きていかなければならないことを重々に感じた。開院15年目はもっと柔軟に、わが身を守りながら、家族やスタッフ、患者様のため、そして福山の為に少しでも貢献できればと願う。そしてクリニックだけでなく、世界中のすべても早く元の日常に戻れるように心から祈るばかりだ。

福山市ばらモデル花壇 認定継続中

2020年は福山市明るいまちづくり協議会主催のばら花壇コンクールエントリーの年でしたが、中止となりました。今年度の開催は未定ですが、春を楽しみに育成に励みます。



〒720-0832 福山市水呑町 444-7

TEL: 084-920-5155

<http://ohwc.jp>

2020年度 クリニックのデータ

2020年は新規登録患者様677人、のべ10127人の患者様に来院いただきました。感染予防対策を図ったコロナ禍での診療でしたが、2019年度より増加したことはクリニックネットワークが定着してきたことを嬉しく思い、改めて地域医療における当院の責任を感じています。子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など良性疾患の多くは倉敷成人病センター様の腹腔鏡下手術により患者様のQOLを保ちながら治療がなされました。悪性疾患は福山医療センター、福山市民病院、中国中央病院、倉敷成人病センター様などと病診連携をはかり子宮頸部上皮内腫瘍；高度異形成15名、子宮体癌7名、卵巣癌1名、子宮肉腫1名の患者さまが適切な医療を受けることが出来ました。子宮頸癌は一次予防として、福山市の高校1年生を対象した子宮頸癌予防ワクチン（HPVワクチン）の案内があり、接種者が急増しましたが、まだまだです。今後も情報が広く伝わることを望まれます。子宮体癌の増加は今年度も特徴的でした。子宮ファイバースコープ検査は11名でしたが、検査体制を充実させて参ります。不妊症に対しては子宮卵管造影検査を28名に行い、排卵誘発、タイミング法、人工授精までしか扱っていませんが、ストレスが大きかからないような診療に配慮しています。高度生殖補助医療は指定医療機関様と連携を図り、よい成績を収めています。LEP製剤（低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬：月経困難症治療薬およびピル）は月平均384シート処方昨年より増加しています。他の選択肢としてジェノゲスト処方、子宮内黄体ホルモン放出システムも増加し、女性の生活改善に役立っています。血栓症に対しては厚生労働省、学会の注意に従って適正使用を行い、下肢静脈エコーの充実と院内で末梢血、d-dimer測定が可能です。代替医療としてのアロマセラピー・エステは現在休止しています。



スタッフより

看護師

私自身の環境が変わり、苦しい時期に患者様から「いつも顔を見たらホッとして安心できます。絶対やめずにずっといてくださいね」、お言葉に救われ、乗り切れました。患者様のためにと考えて来ましたが、患者様から支えてもらって頑張っているのだと学び、今までの「悔しい経験」をバネに、「つらい経験」を思いやりに、「苦しい経験を」を宝に、今年も前を向いて笑顔で頑張っています。

看護師

クリニックの一員となり、医療面、看護面で学ぶことも多く、日々勉強です。落ち込む日もありましたが、皆様に支えられたことに感謝です。今年一年はクリニックを選んで来院して下さる患者様に安全でよりよい医療を受けて頂けるよう、目配り、心配り、日々努力して参ります。どうぞ宜しくお願いします。

看護師

昨年は新型コロナウイルスの影響で生活が一変しました。コロナ禍で我慢の生活でしたが、そんな中でも、ちょっとした気配り、気遣いで心が晴れることができました。よくしてもらって嬉しかったこと、この気持ちをこれからの仕事に生かし、感謝の気持ちを忘れずに知識、技術を磨き、精進していきたいです。

医療事務

昨年も多くの患者様に来院して頂き、「不安だったけど来て良かった、安心した。」とお声をかけて頂くこともあり、そう言って頂けることが、この仕事をしていて一番嬉しいことだと改めて思う一年でした。婦人科は行きづらいと思われることも多い科ではありますが、今年も患者様に安心して受診して頂ける対応を心がけて参ります。